

富士の今と昔 ⑦

富士川の舟運は、かつて甲州と駿河をつなぐ重要な交通路でした。しかし、明治末から大正にかけて、中央線、身延線が開通、自動車交通の発達もあり、船影は全く見られなくなりました。

富士川の通船(明治時代) 奈木盛雄氏提供



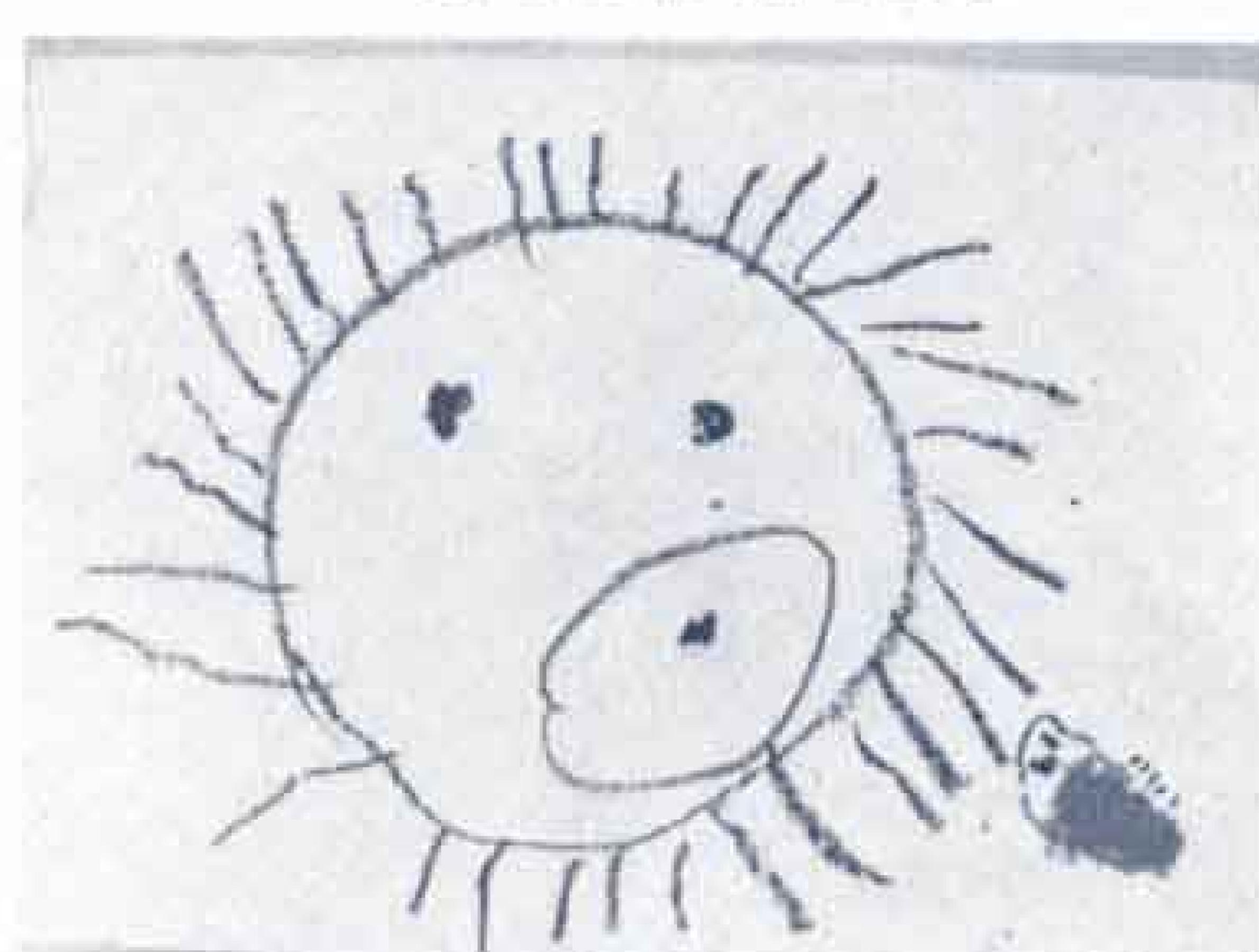
富士川町から見る



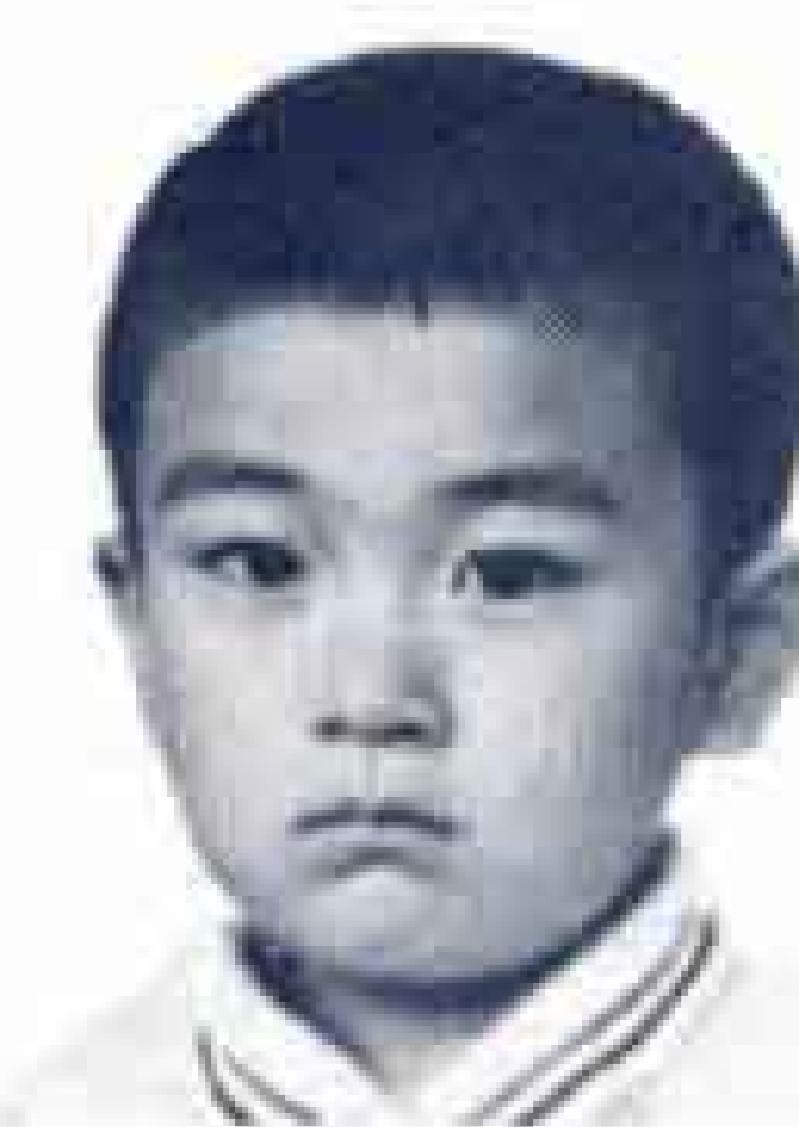
ぼくの作品 わたしの作品



「お父さんとぼく」をかけてくれた掛橋栄希君と、「はらぺこあおむし」をかけてくれた井出あかねちゃん。神戸幼稚園のお友だちの作品です。



よしき(3歳)



だいすきなお父さんと、おうちのちかくへおさんぽにいったら、チューリップがあった。



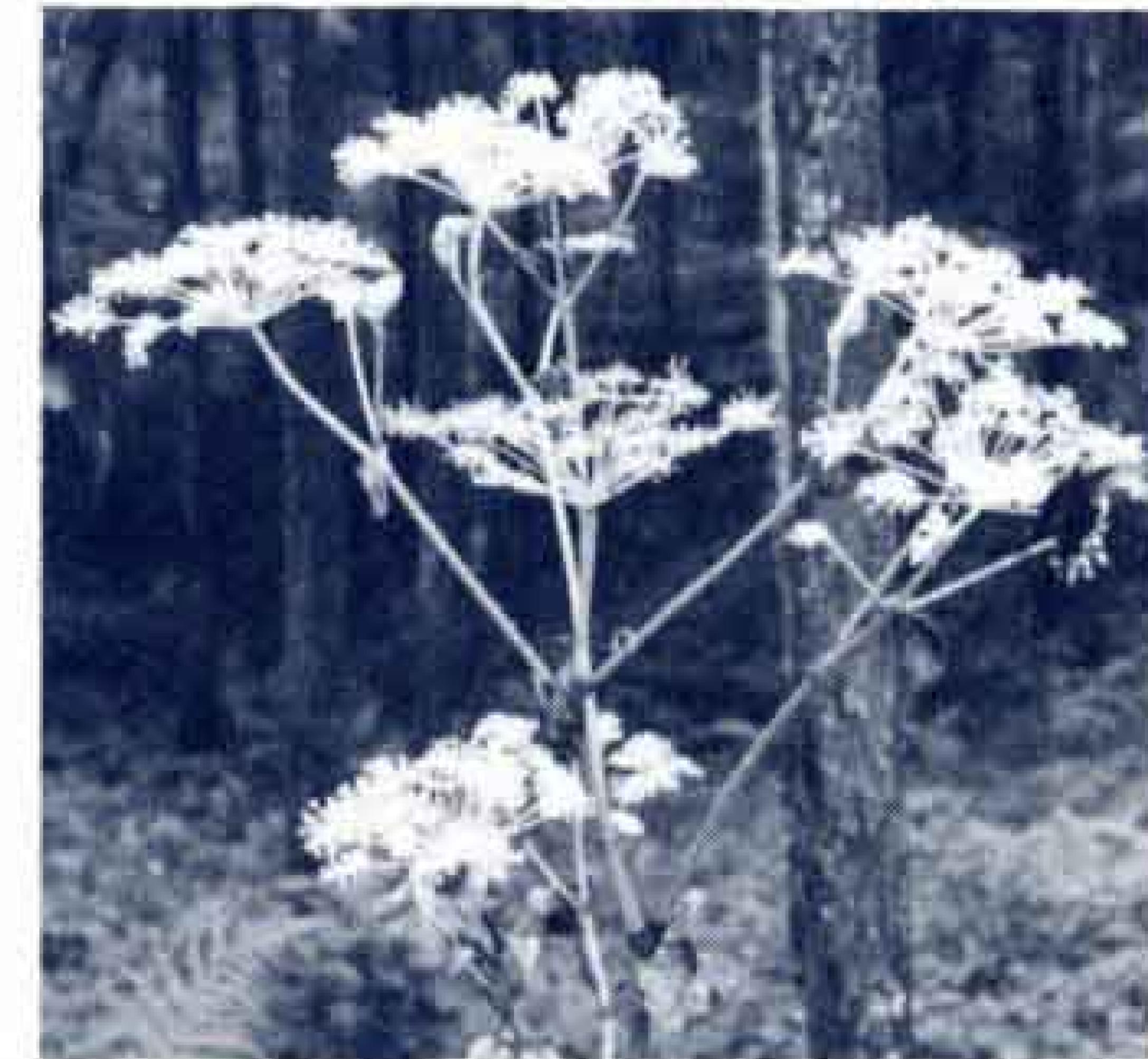
おひさまがでたとき、あおむしがうまれました。はっぱをたべて、おおきくなりました。



橋田 権治さん



⑩



シシウドの花

台風

台風が近づくと森は深い霧に包まれ、やがて風雨が荒れ狂う。スギ、ヒノキ等根の浅い植林されたものは根こそぎ横倒しになり、コナラ、シデ等丸火の岩にしっかりと取りついた木は、幹の途中で折れたり曲がったりしている。

真夏日

嵐が過ぎ去ると空はあくまで青く、森にはシラユリの香りが漂う真夏日となる。ヒグラシは朝夕、そして、ちょっとでも日が陰ると一斉に鳴く。愛鷹山の方で遠雷がどろくと、1時間もたたないうちに森に稻妻が走り、雷鳴がはじける。大粒の雨が襲う1時間余りで、また夏の太陽。まだぬれたクサギの花群にカラスアゲハ、クロアゲハが群れをなし集まる。

秋の気配

道野辺にヤマホトトギス、フシグロセンノウ、コウゾリナ、ゲンノショウ、ツリフネソウ、森かけにはタマアジサイ、シシウドの花が咲き、キャンバーでにぎわった森が静かになる頃、ホウシゼミの声が秋の気配を伝えてくる。